

中小企業がSDGsに取り組む理由とは？背景やメリットを説明します



「SDGs」が国際指標として採択されてから、今年で8年目を迎えました。現在では多くの企業や自治体が活動に取り組んでおり、SDGsは私たちの間でも馴染み深いものとなっています。しかし採択された当初、事業に関係ないと判断したのか、中小企業の多くは現在ほどSDGsに注目していませんでした。この記事では、中小企業が以前よりSDGsに取り組むようになった経緯や、今後取り組むべき理由について解説していきます。

SDGsが中小企業に与えた影響



SDGs(Sustainable Development Goalsの略称)は、17の目標と169のターゲットから構成された「持続可能な開発目標」です。環境、食料、労働問題に対し「誰一人取り残さない」社会の実現を目指し、2015年にその活動をスタートさせました。

中小企業がSDGsに取り組むようになった背景には、大手企業による取引条件の変化があげられます。取引先への評価※に環境問題や労働問題への取り組み方が追加されたため、多くの企業がSDGsを考慮した事業展開に迫られました。

SDGsの影響はグループ会社やサプライチェーン企業など、多くの企業に変革を与えるきっかけになったのです。

※参考:[サプライチェーン・マネジメント | 社会 | サステナビリティ・CSR | 三菱商事 \(disclosure.site\)](#)

中小企業はSDGsにどれぐらい取り組んでいる？



2023年7月、東京データバンクによる「[SDGsに関する企業の意識調査※](#)」の結果が発表されました。最新の意識調査によると、2023年現在SDGsに取り組んでいる大企業は71.6%、中小企業は53.6%といった結果がでています。その中でも、現在力をいれているまたは今後取り組みたい項目は、目標8「働きがいも経済成長も」でした。

SDGsの取り組みによる効果を実感しているのは「企業イメージの向上」や「従業員のモチベーションの向上」が多く、環境問題や労働問題をクリアすることが、企業の発展につながると考えている経営者も多いようです。とくに、SDGsの中でディーセント・ワーク（働きがいのある人間らしい仕事）を推奨している以上、労働環境の改善は重視すべき課題といえるでしょう。

※参考：[東京データバンク「SDGsに関する企業の意識調査（2023年）」](#)

中小企業がSDGsに取り組むメリット



以前からCSR(企業の社会的責任)に取り組んできた企業も、取引上のリスクを回避するため、あらためてSDGsへの対応に迫られるようになりました。ただ、SDGsへの取り組みは、リスク回避だけでなく企業成長につながるメリットがあります。

SDGsに取り組んだ場合のメリット

- 社会的な信頼を獲得:ステークホルダー(投資家・金融機関・従業員・消費者)からの信用や信頼を獲得できる。
- 新たな顧客を獲得: SDGsに対応する製品やサービスを提供し、環境配慮による新たなビジネスの創出と需要が見込まれる。
- コスト削減:資源を効率よく活用しエネルギー削減に努めれば、コスト削減や経済的メリットにつながる。
- リスク管理:環境問題や労働問題への配慮により、法的リスクへの対策になる。
- 社員のモチベーションと人材定着:社会貢献をしている実感や仕事への誇りが高まることで、企業への定着率が上がる。

SDGs関連の商品やサービスの創出、労働環境の改善により、上記のようなメリットが生じます。短期間で効果が出るかは別として、SDGsを推進・継続していけば、いずれは利益や事業継続の

道筋へとつながっていくでしょう。長期的視点でとらえれば経営のプラスになるため、SDGsに取り組むメリットは大きいといえます。

今後もSDGsへの注目度は高い



SDGsに取り組む企業や自治体が増えたことで、環境や労働に関する問題は一般にまで広く認識されるようになりました。それにより、取り組み方ひとつで企業に対する信用や注目度は大きく向上します。社員のモチベーションを向上させ、企業の発展につなげていくためには、SDGsへ取り組むことが喫緊の課題といえるでしょう。

参考

- 記事テーマ「SDGs」
- ロングテールキーワード「SDGs、中小企業、取り組み」
- ターゲット「対象：中小企業の経営者・幹部。SDGsの取り組みを検討し始め、経営へのメリットや展開方法をリサーチしている」